

【緑地の樹】

サンショウ（山椒）

4月、緑地の中央広場の山椒の木に、黄緑色の小さな花がいっぱい咲きました。3m近い雄の木で、咲いているのは花粉をつけた雄花です。

初夏に小さな青い実がなるのは雌の木で、雌花は花も少なく地味です。広場では、雄木から少し離れた場所に、2本の雌木が立っています。雌雄異株で、葉の付け根や枝には対のトゲがあります。よく似たカラスザンショウは、トゲが互生なのが違います。

山椒は日本原産で、古事記にも「椒ハジカミ」として登場しますが、生姜もハジカミと呼ばれていたもので、こちらは山の椒となったそうです。

サンショウ雄花



プロフィール:ミカン科サンショウ属
中央広場や山の中に生えています



サンショウ雌花

山椒は、私達の食生活に関わりが深いですね。春の木の芽あえ、花山椒や若葉の佃煮、青い実を塩ゆでして作るちりめん山椒、麻婆豆腐の薬味、うなぎに欠かせない粉山椒等々、花も葉も実も香り高く、ぴりっと辛味があり、季節の喜びを運んでくれます。

中央広場を探してみると、鳥が種を運んだのか、山椒の幼木が数本草むらに隠れていました。小さな葉からも、あの特有の匂いがします。そういえば、家のすりこ木も、山の土産物屋で買った山椒の木製です。遠い昔から、人々の暮らしと共にあった生活樹なのですね。

(桑原)